

昭和51年度第1回融合炉核データW.G. 会合議事録

日 時：昭和51年5月21日（金）13時30分～17時30分

場 所：日本原子力研究所東海研究所研究2棟222号室

出席者：関泰（原研），更田豊治郎（原研），亀有（三菱原子力，伊尾木公裕代理），村田徹（NAIG），浅見哲夫（原研），北沢日出男（東工大工），伊東新一（日立原研），神田幸則（九大工），田中茂也（原研）

欠席者：菊地士郎（原研），中島豊（原研），西村和明（原研）

配布資料 融合炉核データWG計画（案）

議 題

1) 50年度作業報告（田中）

50年度はW.G. 会合の開催をあまり行わなかったが，関氏らから提出された，WRENDA Request は，グループ員による screening 作業結果を，原研所属のグループ員がまとめて，1975年12月にCCDNに送付した。尚，Request List は表の形で印刷物の形にまとめておく予定である。

各メンバー分担の評価作業は西村氏のF関係のもの以外は，あまり進行していないので，次の51年度計画で更めて考えをおす。

2) 51年度実行計画

2-1) グループ員の変更の紹介

（上記出席者，欠席者の欄参照，たゞし上記以外に，原研，菊池康之氏が当分はオブザーバーとして参加する。）

2-2) 51年度予算

更田氏から，原子核データ室の予算の説明があった。当グループ関係としては，核融合炉関係核データの調査委託（約150万円）が行われる予定である。さらに，52年度概算要求について説明があった。

2-3) A & Mデータの状況報告（更田）

国内外でのA & Mデータ関係の状況報告が，当グループとの関連も含めて，説明された。

2-4) 作業計画 (田中)

配布資料に沿って、(1)核データ・コンパイルーションの作成および(2)評価作業の推進のための検討が討議された。

(1) 「核データ・コンパイルーションの作成」については次のように決定した。

50年度 WRENDA に送付したものと同一、核種、反応の種類およびエネルギー範囲に対する実験データのコンピュータによるグラフ・プロットを行い、missing data の追加を行い製本化する。

この作業は評価作業に直接役立つものというよりは、評価作業に定性的な意味で役立つと共に、一般のユーザーに或る程度役立つものをねらいとする。

作業の進め方：(イ) CCDM からデータをもらう。

(ロ) プロット作業はアルバイトまたは外注が望ましいが、予算その他でむづかしく関氏および原研所属の有志グループ員が行う。

(ハ) (イ) と平行に、CINDA を参照して missing data を survey し、グループ員が追加作業を行う。

(2) 評価作業の推進のための検討

(イ) 従来の作業分担による評価作業もできるだけ進める。

(ロ) 理論計算を主体とする評価作業

(n, p), (n, α) 反応に対する、Precompound および H-F 理論を用いたコードが北沢氏により作成された。更に ($n, 2n$) 反応も含めた評価作業を指向するために、今回の会合で、北沢氏に講演を依頼した。

次回会合予定： 7月最後の週、東京で

以上